

## W. R. ランバスが日本から送った最初の報告書

池田 裕子

関西学院を創立した南メソヂスト監督教会宣教師 W. R. ランバスが日本から送った最初の報告書（1887年2月9日付、同教会伝道局第41回年次報告に掲載）を『関西学院史紀要』第27号（2021年3月15日）で紹介したところ、元経済学部教授の池田 信先生からメールと FAX でコメントを頂戴しました。

池田さんの論文のなかで紹介された『南メソヂスト監督教会伝道局第41回年次報告』の全文はまことに貴重なもので、その全体を通読できたことに大変な感動を覚えました。ピンソン著『ランバス伝』は、時間的余裕がなくて読まずじまいにできていました。同書についての池田さんの論究はたいへん勉強になりました。いずれもたいへん刺激的で感謝しています。

いろいろと感想を書こうと思っていましたが、現在の体調ではそれもできない状態にあります。今の私の体力で扱えるところだけに触れることにします。すべて『第41回年次報告』のなかの「位置」と題された項の貴訳についての感想です。

報告書の「位置」は、第2回四季会（1886年12月31日）の報告の一部で、神戸を活動拠点とする理由が述べられています。この部分は、ピンソンの『ランバス伝』に引用され、その後、『関西学院百年史』を始めとする年史や論文にも引用されてきました。その際、ランバス自身が書いた「報告書」に遡らず、ピンソンの著書が典拠とされることが多い点に、かねてより疑問を感じていました。そこで、井上琢智前学長から受けたアドバイスに従い、問題点をまとめ、「報告書」全文（英語・日本語訳）を付けて『関西学院史紀要』に投稿したのです。

池田先生は、「報告書」の中の「位置」に絞り、今回、私自身が取り組んだ翻訳の不十分な点を指摘し、ひとつひとつ丁寧にその理由を説明していただきました。そして、先生ご自身による翻訳例をご教示くださった上で、「今後もランバス研究で成果を挙げてください」と、励ましていただきました。

多くの方の参考になると思われますので、先生の許可を得て、その翻訳をご紹介します。

【学院史編纂室】

## 位置（『南メソヂスト監督教会伝道局第41回年次報告』より）

私たちは、基本となる境界線の中心地として、いささかの惑いもなく神戸に着目してきました。

1. ここは、私たちの正当な領域の中心です。メソヂスト監督教会には、神戸の北方 200 マイルから南方 300 マイルまでが割り当てられています。
2. ここは、いま完成を急がれている鉄道路線の中心です。
3. ここは、日本のどこよりも四季をつうじて健康に最適な海港市です。
4. ここは、瀬戸内海を統括しており、沿岸を行き交う船舶は、ここを発着所としています。
5. 条約港ではほぼ毎週アメリカ・中国・イギリスとの通信がありますので、内陸部では得られない利点があります。とはいえ、改正条約が批准されるまでは、地元の会社に教育要員として雇用されないかぎり、私たちにとっては条約港の外側に出て居住する権利さえも認められていないのです。
6. ここは、上方では長く連なる小高い山並みに寄り添い、下方では大阪湾沿岸に到り、そして厳寒の冬と炎熱の夏とが支配する長い海岸線の両極のほぼ中間に位置し、またここには見晴らしのよい場所と道幅が広いと好評な街路とがあります。すでに 8 万の人びとが神戸に居を定め、他の人びとも私たちと同様に生活の足がかりを確保しようと熱望しているとは、なんと素晴らしいことではありませんか。

下線部：前の文章と後に続く文章について、後者を反語的なものと判断しなければ、文脈を正確にたどることができないと考えて、接続詞「とはいえ」を追加しました。（池田 信）

『学院史編纂室便り』第54号（2021年10月15日）

関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原1-1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<https://ef.kwansei.ac.jp/archives>